



2023年5月10日

各 位

会 社 名 株式会社 島 精 機 製 作 所  
代 表 者 名 代表取締役社長 島 三 博  
(コード番号 6222 東証プライム)  
(問合せ先) 取締役執行役員経理財務部長 南 木 隆  
(TEL 073-471-0511)

## 「中期経営計画」の見直しに関するお知らせ

当社は2021年5月7日に公表しました中期経営計画「Ever Onward 2023」(2024年3月期)の経営目標数値に関して、下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

記

### 1. 修正内容

#### (1) 経営目標数値の修正 (連結)

	当初計画	修正計画	直近実績
	2023年度	2023年度	2022年度
売上高	540億円	430億円	378億円
営業利益	20億円	10億円	△21億円
経常利益	25億円	17億円	△17億円
親会社株主に帰属 する当期純利益	20億円	12億円	△56億円

#### (2) 製品セグメント別売上高の修正 (連結)

	当初計画	修正計画	直近実績
	2023年度	2023年度	2022年度
横編機事業	365億円	319億円	273億円
デザインシステム 関連事業	45億円	37億円	35億円
手袋靴下編機事業	25億円	9億円	9億円
その他事業	105億円	65億円	60億円
合 計	540億円	430億円	378億円

## 2. 見直しの理由

本日公表しました2023年3月期の業績結果及び2024年3月期の業績予想、並びに直近の事業環境等を踏まえ、経営目標を精査した結果、上記の見直しを行うこととしました。

欧州市場を中心に主力製品であるホールガーメント横編機等の設備投資需要は拡大傾向にありますが、最大マーケットである中国市場では、個人消費や生産活動が徐々に回復すると見込まれる一方で中国メーカーとの競合がさらに激しくなることが想定されます。また、原材料や資源価格の高騰等を背景とした厳しい事業環境が継続するという見通しのもと、上記見直しに至りました。

なお、上記の経営目標数値以外の変更はございません。

※ 経営目標数値の修正後の中期経営計画に関する資料につきましては、当社ホームページ (<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/plan/>) をご覧ください。

※ 本資料に記載されている当社の計画及び業績の見通し等は、発表日時点において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、様々な要因により大きく異なる可能性がありますことを、予めご承知おきください。

以 上

# 中期経営計画

(2021~2023年度)

## Ever Onward 2023

A decorative red line that starts on the left, curves upwards, then downwards, and ends with a small loop on the right side.

2021年5月7日  
(2023年5月10日 改訂)

# 前中計の結果（2020年度業績）

- 販売不振により、売上高が大幅に減少
- 2期連続の営業損失（2019-2020年度）

(億円)	2017年度 実績	2020年度 実績	増減率 2017→2020実績	前中計 当初目標	増減率 目標→2020実績
売上高	718	<b>244</b>	△66%	1,000	△76%
営業利益	149	△91	—	250	—
経常利益	155	△72	—	250	—
当期純利益	112	△178	—	180	—
ROE	9.9%	△18.1%	—	12%	—

# 外部環境と「当社課題」

## 外部環境の変化

### 消費者

- 人口増加等によるGDPの拡大
- 消費行動の変化  
(コト消費、SDGsへの関心、SNSの普及)

### サプライヤー

- スマート工場やDX化の機運の高まり
- 成型機への投資が一巡、無縫製機投資へ
- 横編機の低価格化への要望

### リテラー

- コロナ禍を背景にしたEC化の加速
- SDGs対応への関心の高まり

### 競合他社

- 価格競争力の向上と製品ラインアップの充実
- 業界再編の動き

## 機会の 拡大

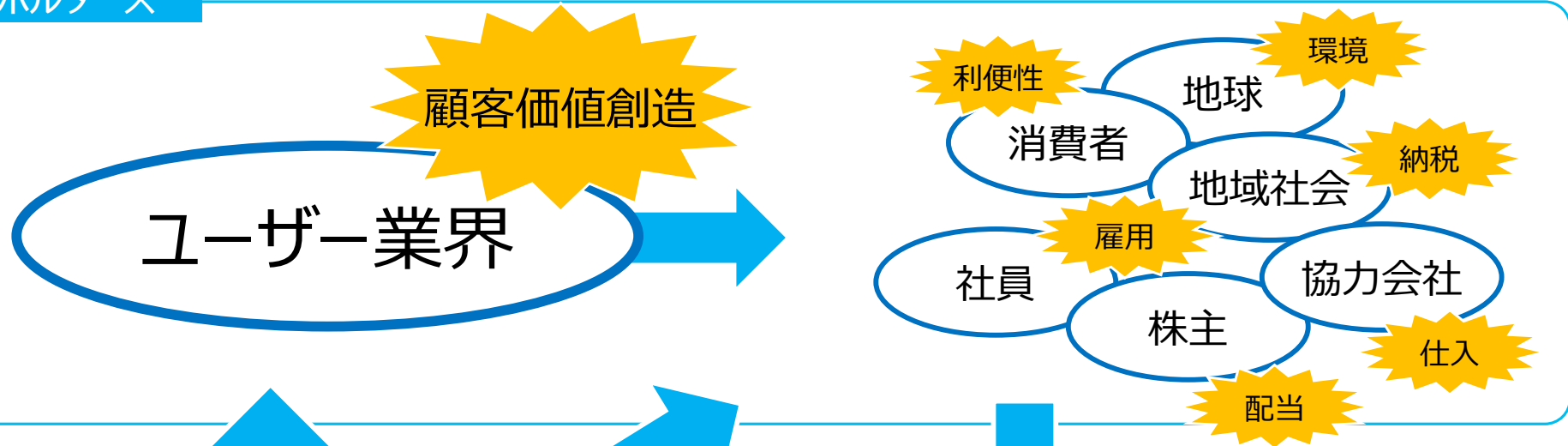
- 中長期での安定的なアパレル市場
- 環境変化による新たな市場の創出 (DX化やSDGs対応など)

## 当社課題

- [ホールガーメント] × [ソリューション] への事業構造の移行
- 顧客ニーズに応える製品の開発・供給スピードの向上
- 新たな領域での事業展開 (既存事業周辺領域など)

# 新中計の「概念図」

ステークホルダーズ



シマセイキ

中期経営計画

ビジョン

経営理念/ミッション

経営理念/ミッションの実現

**Ever Onward** — 限りなき前進  
「世の中になくってはならない企業」  
になる

## 経営理念／ミッション

### **Ever Onward** — 限りなき前進

---

私たちは「愛」「創造」「氣」を合言葉に「**Ever Onward — 限りなき前進**」を掲げ、事業の持続的発展により、「**世の中になくはない企業**」になることを目指してまいります。

**「愛」** 私たちは、仕事を愛し、人を愛し、国や地域を愛し、地球を愛することを通じて、人や環境にやさしい「もの創り」を目指し、社会に貢献します。

**「創造」** 私たちは、高感度・高感性で創造力を発揮し、世の中に無い魅力的なものを創り出すことを目指します。

**「氣」** 私たちは、何ごとにも、成し遂げる“氣”を持って挑戦し、製品やサービスに魂を込め、未来を切り開いていきます。

## 10年後ビジョン

- ▶ 当社の独創的な技術が広まることで、ファッション業界の発展に貢献する「**課題解決型企业**」へ進化していること
- ▶ ファッション業界で培った強みを活かして、他の業界の発展にも貢献する「**感性情報型企业**」へ進化していること





## 「**変革**」と「**再生**」

社員一人一人の「意識」と「スピード」を変革し、  
ゼロから生まれ変わる。

# 新中計の「重点施策」と「事業領域」

## ③ 独自性を持った事業多角化の推進

早期の新事業立ち上げによる経営安定化へ

## ② ソリューションビジネスへの業態変換

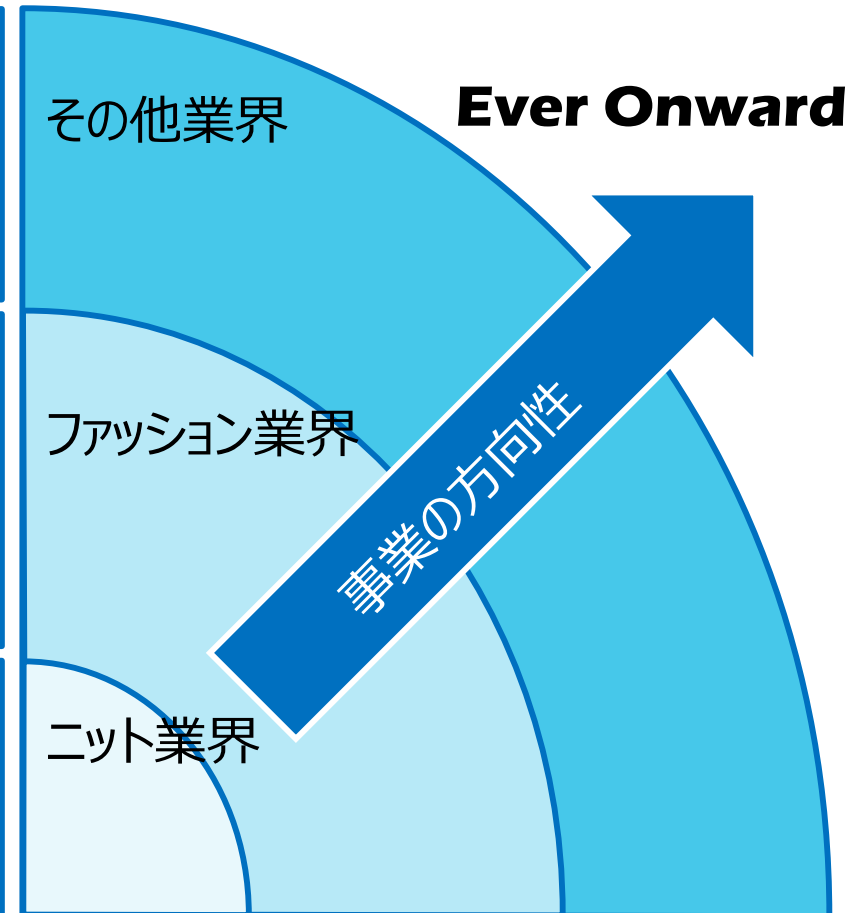
ファッション業界全体のサプライチェーン改革へ

## ① ホールゲーム事業の最強化

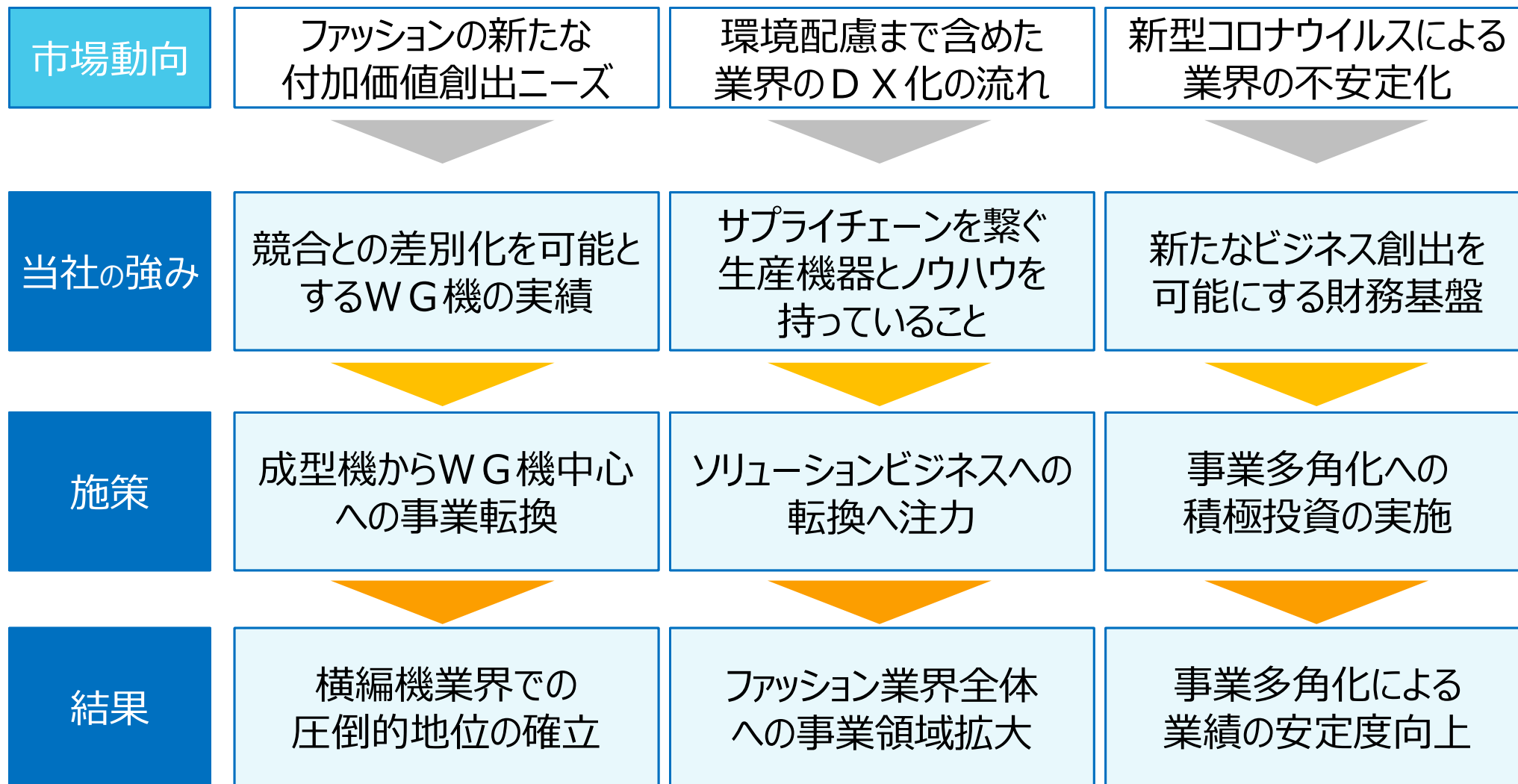
成型機中心からWG機中心の事業構造へ

## ④ 社会の変化に対応した経営基盤の再構築

コロナ後を見据えた経営体制へ



# 市場動向と新中計の重点施策



まずは今後3年間で、業界全体の変革の流れを作りながら、当社業績を黒字化させる。【**変革**と**再生**】

# 新中計の「経営目標」

- 将来へ向けた中間目標の位置づけ
- ミッション達成を通じて、更なる企業価値の向上を目指す

(億円)	2017年度 実績	2020年度 実績	2023年度 目標	増減率 2020→2023
売上高	718	244	430	+76%
営業利益	149	△91	10	—
経常利益	155	△72	17	—
当期純利益	112	△178	12	—

# 目標達成に向けた新中計の「重点施策」

## ① ホールゲーム事業の最強化

➤ 成型機中心からWG機中心の事業構造へ

## ② ソリューションビジネスへの業態変換

➤ ファッション業界全体のサプライチェーン改革へ

## ③ 独自性を持った事業多角化の推進

➤ 早期の新事業立ち上げによる経営安定化へ

## ④ 社会の変化に対応した経営基盤の再構築

➤ コロナ後を見据えた経営体制へ

# 重点施策の「概要」

## ① ホールゲーム事業の最強化

➤ 成型機中心からWG機中心の事業構造へ

(施策内容)

機能強化した新製品の開発

+

製品のコストダウンの徹底

+

販売促進策の実行



➤ 競合他社との差別化を図った WG機中心の事業構造へ

(主な取り組み)

- 開発投資の継続
- マーケティング機能の強化

- 生産工程の自動化推進
- 全社的な業務の見直し

- サービス体制の強化
- 他社との協業の強化

# 重点施策の「概要」

## ② ソリューションビジネスへの業態変換

➤ ファッション業界全体のサプライチェーン改革へ

サプライチェーンでのムリ・ムダ

ニット生産 各工程のつなぎこみ、  
付加価値化・省力化

ファッション業界全体のDX化

➤ モノ売りから「付加価値売り」への収益構造転換へ

(主な取り組み)

■ APEXFiz、yarnbankの浸透

■ ソリューションのラインアップ強化

## ③ 独自性を持った事業多角化の推進

➤ 早期の新事業立ち上げによる経営安定化へ

多角化方針の決定

… 事業領域、規模、目標の設定

+

投入資源の決定

… 投資枠の設定、人材確保



**個々の事業プランの決定**

ターゲットの拡大

既存事業のマネタイズ

ニュービジネス

➤ 横編機事業偏重からの脱却、安定した収益構造の確立



## ④ 社会の変化に対応した経営基盤の再構築

➤ コロナ後を見据えた経営体制へ

経営環境の急激な変化



経営方針の徹底



事業領域

事業規模

目標設定

➤ 施策の実行に必要な経営基盤の整備

# 製品セグメント別 売上高

(億円)	2020年度 実績	2023年度 目標	備考
売上高	244	430	■ 増減率： +76%
横編機	155	319	
デザインシステム関連	25	37	
手袋靴下編機	19	9	
その他	45	65	

# 持続可能な社会の実現に向けた取り組み

## 持続可能な社会実現への貢献を 当社の重要課題のひとつとして認識

- ▶ 持続可能な社会の実現のために、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を目指して『製品』『会社』のそれぞれの段階で取り組みます。

**取り組み** 2030年目標として 主に9つの課題に対し取り組みを推進します。

### 『製品』を通じて



ファッション業界のDX化



ニット製品の在庫ロス削減

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

### 『会社』を通じて



女性役職者登用増



有給休暇取得率UP



適正な工場排水処理



化学物質排出量削減



CO<sub>2</sub>排出量削減



再生可能エネルギー使用比率UP

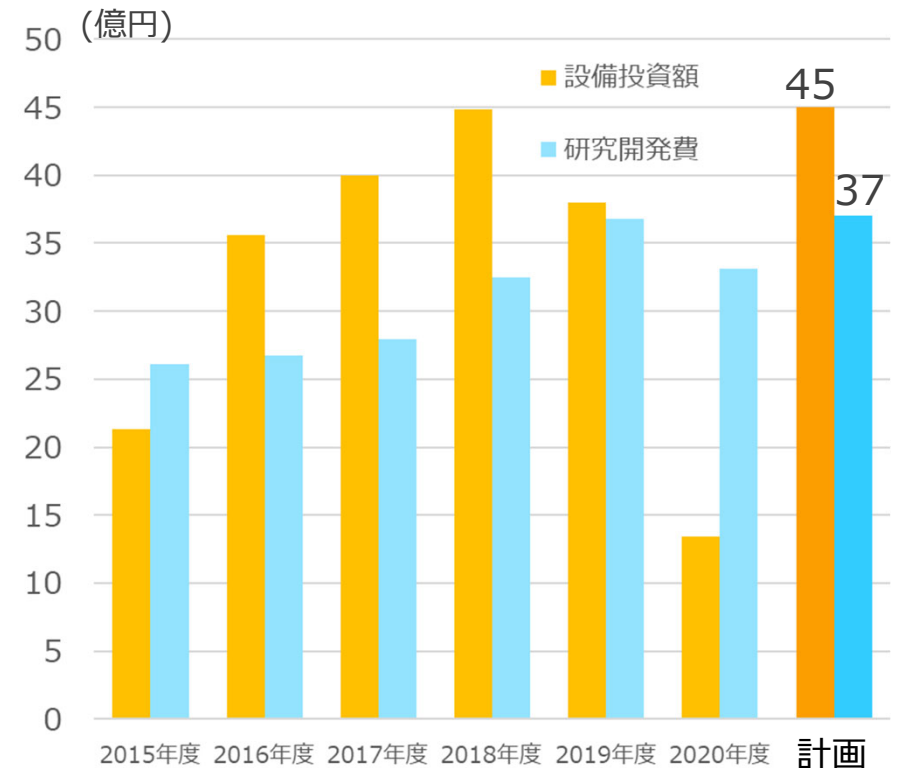


緑地割合UP

## 中長期の視点で積極的な投資を継続

- 高水準の開発投資を継続
- 生産能力増強のための自動化投資の促進
- 全社的視点での人材教育、  
中長期視点での人材投資
- 既存事業強化・新事業創出のための  
投資枠20億円の設定
- 環境投資の強化

### 設備投資額/研究開発費



## (1) 利益還元方針

当社は株主に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつとして位置付け、事業の持続的発展を通じて、安定した配当を長期にわたって継続することを基本方針とする。

そのうえで、長期的視点に立った成長投資および今後の事業展開に備えた内部留保にもバランス良く配分を行う。

## (2) 株主還元指針 (2021年度から3カ年)

**連結配当性向：30%** を目安とする。

- ▶ 業績の黒字化を実現し、連結配当性向30%を目安とする「株主配当」を実施するとともに、株価水準や資金の状況、市場環境などを総合的に勘案し、時機に応じて柔軟に「自己株式の取得」を行うなど、資本効率の向上にも努める。

# Ever Onward — 限りなき前進

## (ご注意)

本資料に記載されている当社の計画および業績の見通し、戦略などは、発表日時点において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、様々な要因により大きく異なる可能性がありますことを、予めご承知おきください。